

# 大宮

THE OHMIYA HACHIMAN

令和 8 年 (2026)

皇紀 2686 年

新春号

【第 133 · 134 合併号】

<http://www.ohmiya-hachimangu.or.jp/>



漫画家 桂正和氏奉納

## 令和八年丙午歳の新春にあたり謹んで皇室を中心とする国家の隆昌と氏子崇敬者の皆様の清福を熟祷申し上げます

宮司 鎌田 紀彦

本年の丙午歳の元旦、午前零時の初太鼓のあと、ご神前では吉例により観世流能楽のシテ方野村昌司師による神能「翁」が奉納され、新春が寿がれます。お陰様で昨年もご神恩を戴きながら、ご敬神の念の篤い氏子・崇敬者の皆々様のご理解とご協力に支えられ、年間の諸祭儀をはじめ諸行事を滞りなく順調に進捗させていただきました事を誠に有り難く感謝いたしております。

鎌倉時代の御成敗式目に、

「神は人の敬により威を増し人は神の徳によりて運を添ふ」

とありますように、氏子・崇敬者各位の真心からのご奉賛やご崇敬の念により、多くの方々にご参詣いただき、年間の諸行事を斎行いたしましたことで、八幡大神様の広大無辺なご神威がいつも高められると思っております。皆様にはそのご神威を戴かれ、物事が成就し益々繁栄することのできる幸運をお受け下さることと祈念いたしております。

また社頭では伊勢神宮のお札（神宮大麻）や当宮のお札（大宮大麻）をお頒かれております。家庭の崩壊が叫ばれて久しいですが、現にお幸せなご家庭の方々のお話を伺いますと、必

ず家居に神棚がお祀りされています。毎日、目に見えぬご存在に「御蔭様で」と手を合わせ感謝する家庭生活をしていますと、自ずと家の中に秩序ができる、そこに心安らぐ明るく楽しい居心地の良い家庭環境が生まれます。神宮や氏神様をはじめとする神々のお恵みやご祖先の恩に感謝し、心から手を合わせ、生かされていることを実感し、その御心に沿う努力をしていくことが大切なのです。家を育て治めることは、家庭の「まつり」をしっかりと行うことでもあり、このような健全なご家庭には、神々のご加護と祝福が必ずあるものと信じております。家の秩序が保たれ、家族の皆様が平安に過ごせますと、家庭が円満になり、家族間の愛情や絆が深まります。夫婦愛、兄弟姉妹愛はやがて隣人愛や郷土愛を芽生えさせ、人と人との絆も深まり、住みよい町づくり、地域づくり、そうして力強い国づくりへと繋がるのではないでしょうか。

毎月・お朔日参りを致しましょう

1月1日 神能「翁」  
1月2日 開運初大祈願祭（一番祈願祭）  
1月3日 小笠原流臺目の儀・大的式  
1月7日 元始祭  
1月15日 昭和天皇祭遙拝  
1月25日 初天神大祭「大宮天満宮」  
1月26日 文化財防火デー消防演習  
2月3日 節分祭鳴弦の儀・豆撒神事  
2月11日 紀元祭  
2月23日 初午大祭「大宮稻荷神社」  
2月25日 天長祭  
3月13日 梅花祭「大宮天満宮」  
3月20日 春季皇靈祭遙拝  
5月3日 大宮八幡宮わかば祭り（春の大祭）  
5月9日 応神天皇陵遙拝  
4月1日 神武天皇祭遙拝・本宮遙拝  
4月3日 第二日ノ儀  
4月29日 昭和祭・春の弓道奉納射会  
5月3日～5月5日 大宮八幡宮わかば祭り（春の大祭）  
5月16日 第一日ノ儀  
5月16日 こどもの祭り・稚児行列・はしご乗り（3日）  
5月16日 植樹祭「苗木配布」  
5月16日 当日祭（尚武祭）  
5月31日 裏千家献茶式  
6月3日 御嶽櫻名神社例祭（御嶽櫻名神社）  
6月3日 狹城盾列池上陵遙拝並びに神功皇后祭  
6月3日 大宮天神月次祭  
6月15日 岩崎 月次祭  
6月15日 大宮天神月次祭  
（どちらでもご自由にご参列できます。）

令和8年新春の祭典と主な行事  
令和八年元年

謹 賀 令和八年元旦

新

大宮八幡宮		和田東地区		和田西地区		松ノ木地区		大宮地区		総代	
代表役員宮司	鎌田 紀彦	鈴木 岩田	憲章 一豊	横尾 細野	信彦 修三	佐野 細野	晃央 修	瀬内山 鈴木	藤枝 玉村	宏友 恒一	藤枝 佐野
責任役員		藤枝 内山	内山 岩船	守男 紀一	守男 紀一	笠原 玉村	守男 紀一	丸山 古屋	丸山 古屋	宏友 恒一	丸山 古屋
		内山 濑沼	瀬沼 岩船	守男 紀一	守男 紀一	森川 池田	守男 紀一	葉梨 俊郎	葉梨 俊郎	宏友 恒一	葉梨 俊郎
		瀬沼 佐野	佐野 恒一	信彦 修	信彦 修	春原 功典	功典 純一	光男 俊郎	光男 俊郎	宏友 恒一	光男 俊郎
		佐野 横尾	横尾 信彦	修三		森川 池田		宏友 恒一		宏友 恒一	
		岩船 細野	細野 修三			春原 功典		恒一 俊郎		恒一 俊郎	
		守男 紀一	紀一 修			守男 紀一		純一 俊郎		純一 俊郎	
		紀一 佐野	佐野 修			紀一 佐野		恒一 佐野		恒一 佐野	
		修 信彦	信彦 修			修 信彦		俊郎 佐野		俊郎 佐野	
		恒一 修	修 三			恒一 修		俊郎 佐野		俊郎 佐野	
		佐野 信彦	信彦 修			佐野 信彦		佐野 信彦		佐野 信彦	

明けましておめでとうございます  
令和八丑酉年 歳正月 一日 観世流能楽師 野村昌司奉納 神能「翁」  
二日 小笠原流除魔神事 藝目の儀・火的式

一日 観世流能楽師 野村昌司奉納 神能翁  
二日 小笠原流除魔神事 舞日の儀・太的式

元日午前零時、宮司の打ち鳴らす初太鼓が境内に響き渡り、令和8年の幕が開きます。新春を祝うご参拝の皆様の列が拝殿前へと続く中、拝殿内では觀世流シテ方能楽師の野村昌司師による神能「翁」が奉納され、天下太平・国土安穏を祈念します。ついで宮司奉仕により歳旦祭引き続き新春厄除開運初大祈願祭（一番祈願祭）を斎行。



## 新春献燈提灯奉納のご案内

新春の期間、1月1日～2月3日まで、皆様のお名前を入れた献燈提灯を掲出させていただきます。世の中の幸多き未来を照らし出すように祈念してご社頭を賑々しくお飾りします。



2日午前には、小笠原流宗家による新春除魔神事・墓日の儀・大的式が奉納されます。墓日の儀では墓目鳴鎬矢の「ヒュー」という雲妙な風切り音により魔障を退散させ、弓威により一年の邪気を払います。3日には、皇位の大元始を奉ぐ元始祭を斎行。こうして大宮八幡宮の一年が始まります。

**とんど焼きにご協力のお願い**

◆お守り・古神矢・古神札類(他の神社のもの可)及び正月飾りのみお預かりいたします。  
◆人形類は、別途ご社殿におきまして人形謝祭を斎行してからお納めいただきますので直接祈願受付所へお申し出ください。ただし、ぬいぐるみはお預かりできません。

企業団体の祈願祭も

1月3日午前9時 元始祭  
1月15日午前10時 月次祭

企業・団体様の仕事始めに合わせて、更なるご発展を祈る祈願祭もご奉仕しております。祈願祭にはご代表様・従業員の皆様お揃いでご昇殿いただきます。ご祈願を受けられ清々しい仕事始めと致しましょ。新春初祈願祭に限り、社頭の申込書に必要事項をご記入の上、事前申込みいただけます。

# 大宮八幡宮 早春の行事

## 古神札焼納祭(とんど焼き)斎行

小正月の伝行事、**古神矢**・古神札燒納祭(とんど焼き)が、1月15日睦月次祭に統じて斎行されます。古く宮中では小正月に清涼殿東庭で吉書を焼く左義長(さきよしやう)の儀式が行われました。当宮ではこの故事に基づき、土段ごとにまず睦月次祭に並び

元旦の午前零時、その年最初の祭典である歳旦祭に引き続き「新春厄除開運初大祈願祭（二番祈願祭）」が宮司奉仕により執り行われます。



応じて、2月3日の節分まで隨時ご祈願祭をお受けしております。

また左記の時間の祭典及び、新春奉納行事などの参拝の際は祭典終了までお待ちいただく場合がございますので、詳細は社務所までお尋ねください。

し、参列の皆様をはじめ氏子崇敬者各位の  
この一年の除災招福を祈ります。また境内  
では、当宮敬神婦人会(りんどう会)によ  
り厄除ぜんざいが淨火によつて炊かれ、振  
る舞われます。

新年を迎えたに成ることをご前にお奉告し、神明の御加護のもと社会の一員としての自覚を新たにする成り立つことを常に奉仕しています。ご祈願の新祭を隨時ご奉仕しています。

## 成人奉告祭ご案内



前年を迎え新たに成したことをご前に奉告し、神明の御加護のもと社会の一員としての自覚を新たにする成り立つことを常に奉仕しています。ご祈願の新祭を随时ご奉仕しています。

梅の花をこよなく愛でた道真公を偲び梅花祭が斎行されます。梅が枝、梅花米がお供えされ、諸願成就が祈念されます。



## 大宮天満宮 初天神祭・梅花祭

1月25日午前10時より初天神祭が斎行されます。御祭神であり学問の神様である菅原道真公に学業成就・技芸上達を祈願され、梅の香かおる梅ヶ香御守が社頭にて特別に授与されます。また、2月25日は菅原道真公の命日にあたり、梅の花をこよなく愛でた道真公を偲び梅花祭が斎行されます。梅が枝、梅花米がお供えされ、諸願成就が祈念されます。

## 文化財防火デー消防演習



## 大宮稻荷神社初午大祭



成人の皆様には宮司揮毫の千支絵馬を特別授与いたします。新成人の皆様のご参拝をお待ちしております。

## 節分祭(鳴弦の儀・豆撒神事)

立春の前日の節分は四季の変わり目の中でも特に重視されてきました。悪疫邪氣を追い払う除魔神事は中国より渡来したもので、『続日本紀』には文武天皇の御代に疫病を鎮めるために行なわれたとの記述があり、我が国でも古来より行なれていました。当宮では2月3日に節分祭

を斎行し、宮中の例に習い桃弓・葦矢で「天・地・鬼門」に潜む魔を射る除魔神事を行い、ついで社殿前にて宮司により弓の弦の鳴る音で妖魔を祓う鳴弦の儀が行われます。その後、鬼のお面を向けた当宮幼稚園園児が参加して行われる豆撒き神事も微笑ましい節分の行事として親しまれています。

(711年)の初午の日に京都伏見の峰に稻荷大神が降臨されたという故事により、全国の稻荷神社で初午祭が斎行されています。百数十本の鮮やかな朱色の初午のぼりが立ち並ぶなか、のぼり奉納者・崇敬者の参列のもと祭典が斎行されます。また、兼務社の堀ノ内熊野神社・成宗白山神社・尾崎熊野神社・境外社の谷中稻荷神社でも執り行われます。

## 初午のぼり奉納募集

お稲荷様は、商売繁盛・家内安全のご利益のある神様です。本年も、左記により商売繁盛・家内安泰を祈願する朱色のぼりを大宮稻荷神社のご社頭にご奉納賜ります。ご案内いたしお願い申し上げます。

一、朱色のぼり一口三、〇〇〇円

できましたら一対二口以上でお願いいたします。のぼりには、ご氏名(または会社名)を入れさせます。

奉納  
大宮稻荷神社 初午大祭

## 大宮八幡桜まつり開催



## 勧学祭・ランドセルお祓い式

子育て八幡様のご加護を戴き、6年間の学業成就や学校生活の充実、交通安全を祈願する勧学祭を斎行し、これから毎日背負うこととなるランドセルをお祓いします。小学校への入学は大きな人生的の節目です。ご神前にてランドセルのお祓いを受け、心身共に清々しい気持ちで新学期を迎えましょう。

## 新春厄除祈願祭のご案内

厄年は、古来人生の節目として特に気をつけなければならないとされている年回りです。厄除けのお祓いをお受けになり、清々しい一年に致しましょう。

(旧境内)一帯で善福寺川沿いの約700本の桜が一斉に咲き誇ります。開花シーズンの土曜・日曜は午後8時まで開門し、大宮八幡桜まつりを開催。夜間参拝と桜満開の和田堀公園への通り抜けができます。



## 男 性

前 厄	本 厄	後 厄
平成15年生(24歳)	平成14年生(25歳)	平成13年生(26歳)
昭和61年生(41歳)	昭和60年生(42歳)	昭和59年生(43歳)
昭和42年生(60歳)	昭和41年生(61歳)	昭和40年生(62歳)

## 女 性

前 厄	本 厄	後 厄
平成21年生(18歳)	平成20年生(19歳)	平成19年生(20歳)
平成7年生(32歳)	平成6年生(33歳)	平成5年生(34歳)
平成3年生(36歳)	平成2年生(37歳)	平成元年生(38歳) 昭和64年生
昭和42年生(60歳)	昭和41年生(61歳)	昭和40年生(62歳)

※本厄の前年は前厄、後年は後厄にあたります。  
厄年に限らず、除災招福の厄除祈願を受けることができます。

## 杜の話題

### 大宮八幡祭り(秋の大祭)



恒例の大宮八幡祭り(秋の大祭)では、まず9月13日に若宮八幡神社並びに白幡宮例祭を斎行、9月15日には例祭併せて氏子奉幣祭が斎行されました。祭典中には献饌に続く裏千家淡交会東京第7西支部による奉茶の儀の後、宮司が祝詞を奏上。神社本庁の献幣使として松山文彦東京都神社庁局長(東京大神宮宮司)が参向され、神社本庁幣を奉幣し祭詞を奏上いただきました。また、本年度副奉幣使(副祭礼委員長)の内山誠責任役員が大宮・方南北・方南北・和田東・和田西・松ノ木の氏子6地区よりの浄財を氏子幣として大前に献じ、奉幣使(祭礼委員長)末柄哲男責任役員が氏子祈願詞を

浦安の舞が奉奏され、祭典終了後には直会が開かれました。同日午後6時からは、戸消防記念会第九區八番組の木遣りを先頭に神門内大前に練り込み、熱気に満ちた神輿振りは最高潮に達しました。大祭期間中には大宮幼稚園園児民謡踊り・杉並太鼓・方南エイサー踊り・佼成雅楽会による舞楽・高井戸囃子などの奉祝行事が行われ、露店も出店されて境内は大変賑わいました。さらにも重陽の節句菊に重陽の節句菊ビートにて展示されました。



### 第25回十五夜の神遊び

今年の十五夜(旧暦8月15日)は10月6日であり、直近の土曜日の4日に第25回十五夜の神遊びが斎行されました。夕刻6時より仲秋祭が斎行され、約1300基の竹灯籠に神職や参列者等の手によって火が点されました。本殿では雅楽「陪膳」が、神楽殿では「浦安の舞」が奉



当宮では近隣の中学校の職場体験を受け入れており、6月3日～5日に高井戸中学校の2年生女子4名が、7月8日～10日に向陽中学校の2年生男子1名女子3名が、10月22日～24日に松溪中学校の2年生男子2名女子1名が参加しました。神職の指導により白衣袴姿で朝拜に参列。境内の説明から掃き掃除、雅楽体験、授与所でのお守りの授与、大祓詞の書写など、神社でしかできない多くの経験をしました。最終日には装束を着けて記念写真を撮影しました。



### 中学生職場体験



奏されましたが。引き続き神楽殿にて月の音舞台が開かれ、尺八奏者き乃は氏に奉納されました。



2日目は、琉球の政治、外交の中心地であり、琉球王国の栄華を物語る首里城を見学。開門を告げる朝の儀式(御開門)を見学。琉球王国第一尚氏の陵墓で世界遺産の玉陵を見学しました。ついで首里籠つたため、その洞窟に社を建て祀った事が始まりとされる普天間宮を参拝し、グスクの石積技術の残る世界遺産中城跡を見学、識名宮を参拝しました。

3日目は、琉球王国最高の聖地であり、以前は男子禁制であつた斎場御嶽を訪れ、当時の祭祀についての説明を受けました。その後、先の沖縄戦で

### 東京都八幡会研修旅行 沖縄県方面へ

毎年恒例の東京都八幡会(会長・当宮鎌田宮司)の研修旅行が、「沖縄県八幡信仰を訪ねて」と題し開催されました。16名が参加し、10月8日から10日の日程で行われました。

まず、那覇空港に到着した一行は、沖縄県護國神社を正式参拝しました。ついで冲宮を参拝の後、崖の上に鎮座する、琉球八社の筆頭であり近代社格制度で官幣小社に列せられた波上宮を正式参拝。その後、天久宮、安里八幡宮を参拝しました。

## 千玄室大宗匠逝去

裏千家前家元の鵬雲斎千玄室大宗匠が8月14日に102歳で逝去されました。千玄室大宗匠には長きにわたって毎年5月に当宮にて裏千家献茶式をご奉仕いただいており、今年5月にも矍鑠たるお手前で濃茶と薄茶をご神前に献じられていました。当宮への格別な心寄せに感謝申し上げ、追悼の意を表します。



犠牲となつた戦没者の慰靈の為に設置された県立平和祈念公園を訪れた、沖縄戦の犠牲者や南方諸地域で戦没した東京都の関係者の為の慰靈碑「東京之塔」に、鎌田会長を先頭に献花をして拝礼しました。最後に旧海軍司令部壕を訪れ、唯一の地上戦が行われ凄惨な結果となつた歴史を今に伝える資料館を見学し、帰途につきました。



## 神宮大麻領布式並びに 氏神神社神符等奉戴式

11月12日

初春を迎えるにあたり氏子に崇敬者・立正俊成会員の方々にお頒かれる神宮大麻領布式並びに氏神神社神符等奉戴式が斎行されました。藤枝責任役員、瀬沼責任役員、末柄責任役員、兼務神社役員、立正俊成会神札頒布責任者、代理の森川順子様、代理の森川総代、ご参列のもと、ご神前にて神宮大麻や各氏神大麻、大宮三宝荒神などの神札類の頒布始めを大神様に奉告後、各代表に授与されました。また12月中旬には、神職が各ご家庭にお伺いして神宮大麻、氏神様のお札、三宝荒神様の御神札をお頒りします。ご希望の方は、近くの当宮社務所もしくはお



## 秋の実りに感謝 新嘗祭

11月23日午前9時より、新穀を八幡大神様にお供えし五穀豊穣を感謝する新嘗祭が宮司以下祭員奉仕により執り



責任役員・総代にお尋ねください。ご家庭や会社の事務所の神棚に新しい御神札をお祀りして幸多い一年といった感じです。

## 大宮幼稚園園児画展



大宮幼稚園年中組の園児たちの「ぼく・わたしの好きなもの」をテーマにした73点の作品が、神門南側回廊にて11月3日より11月30日まで展示されました。園児や保護者が、自分やお友達の描いた作品を鑑賞していました。

穀物や野菜果物などが庭積机代物として大前に献じられました。

## 毎月お朔日参りには 月代り御幣守護を!!

当宮では古くより朔日（一日）、十五日に月参りをされる方が多く、こうした方々に年間を通して八幡大神様のご神威をお受けいただこうと、毎月の朔日祭に併せてお朔日参り大御幣振り神事を奉仕して月代りの御幣

守護を授与いたしております。

月毎にお申し込みの場合は初穂料三千円、年間一括でお申込みの場合には初穂料三万円にて斎行いたします。



庭積机代物

## 一万人のお宮奉仕 清掃奉仕

全国各地の神社仏閣にて清掃奉仕活動を開している

一万人のお宮奉仕の活動が12月9日に行われました。正式参拝の後、境内の落ち葉を集めるなど清掃奉

内には午前10時から午後3時まで約3万人の参拝者で賑わいを見せました。

告祭が本殿で斎行され、午前11時には神門前のステージで鏡開きが行われました。表参道より大前まで午前・午後の2度にわたって花笠踊りのパレード

が奉納され、山形産の農作物や特産品の露店が立ち並び、山形県の郷土料理である芋煮や御神酒などがチャリティーで振る舞われました。初冬の境

内には午前10時から午後3時まで約3万人の参拝者で賑わいを見せました。



## 第32回杉並花笠祭り



「ウイングマン」や「電影少女」などで知られる漫画家の桂正和氏が、この度午年を迎えるにあたり、日の丸を背景に今にも天に駆けのばらんとする馬の原画を奉納されました。当宮では、その原画をあしらった絵馬を正月より授与所にて頒布いたします。



第47回 杉並大宮菊花展受賞者	
宮司賞	彩胡優美 青木 弘次
杉並区長賞	国華越山 吉田 光治
杉並大宮菊の会会長賞	泉郷富水 松尾 和雄
大宮八幡宮責任役員賞	古澤 泰志
審査委員長賞	国華若宮 庄司 衛
京王電鉄賞	吉田 晴美
サミット賞	松尾 和雄
みどりの会会長賞	石黒 陽子
新人賞	青木 弘次
国華幸運	吉田 晴美
石黒 陽子	和雄



9月6日、秋の大祭を控えて注連縄張り奉仕が行われ、神輿の合同宮入りの渡御お道筋の表参道両側、方南通りに注連縄を張り巡らせていました。12月21日、年末恒例の門松づくりが行われ、新春を迎える準備を整えました。

## 氏子青年会だより



### 御垣内清掃

9月5日、秋の大祭を控えて清掃奉仕が行われました。五本木副会長以下8名の役員・会員は正式参拝の後、御垣内を清掃し御社殿を拭き上げました。

りんどう会だより

## 大宮八幡宮 第12回フォトコンテスト

### 入選作品発表

審査賞（最優秀賞）



『枝垂れ桜 春らんまん』  
濱田文夫

金賞



『頑張って！』  
岡本洋三

銀賞



『閉門間近の  
赤門から見た景色』  
吉村直樹

銅賞



『古代への誘い』  
中田好忠

銅賞



『華やかに』  
畠山敏郎



『君が作る物語』  
城石和明



『古代への誘い』  
中田好忠



⑩そして石に戻りました。



⑦神様は「木と葉っぱは家族だから一緒にねんだよ。」



④「木が輝くためにあるのかな。」



①この神社に狛犬が住んでいました。



⑪もう暑い夏がやってきました。



⑧「わはは。」と笑いました。



⑤「それとも支えるためにあるのかな。」



②狛犬は、石から出て散歩に行きました。



⑨狛犬は神様と別れて帰りました。



⑥狛犬は、神様に聞きに行きました。



③この木を見て、狛犬は思いました。「なんて木には葉っぱがあるんだろう。」

『かぞくだね』 しろいしゆきあき

審査委員長賞（優秀賞）

### 募集サイズ：2L・4ツ切サイズ

大宮八幡宮に関する作品であれば、風景・人物・行事等テーマは自由です。但し、各神事での撮影禁止事項をお守りください。応募作品はお一人につき5点までです。詳細は、社頭やホームページページにて要項をご確認ください。

### 協力写真店

フォトグラフ三光堂（大宮八幡宮白カメラハウス本店（久我山）

※入賞作品の著作権は応募者本人に帰属しますが、使用権は主催者に帰属するものとし、展示や当宮の出版物・広報・インターネット等に無償で使用させていただきます。（※各媒体掲載時には、氏名のみを掲載させていただきます。）

第12回大宮八幡宮フォトコンテストが開催され、7月31日までに大宮八幡宮の四季折々の風景や、祭礼行事を写し撮った16名、63点の作品が寄せられました。8月16日に、杉本恭子審査委員長をはじめ、宮司・審査委員各位の厳正な審査の結果、最優秀作品1点、優秀作品1点他、各賞が選出されました。また、

10月4日には奉告参拝の後、選考作品特設展示会場にて杉本審査委員長より出品者へ総評、各作品の講評が発表され、大宮八幡宮清涼殿「亀の間」で表彰式が行われました。なお、当日は夕刻より第25回十五夜の神遊び（仲秋祭）が行われ、受賞者の方々は秋の夜空の下、竹燈のほの灯りに照らされた境内を散策、雨月の趣きとしばしの撮影会を楽しみました。

当宮の自然や行事風景を、プロ・アマ問わず皆様の目で写し撮つてください。出品作品は八幡大神様にご奉納いたします。大宮八幡祭り（秋の大祭）期間中に展示し、ご参拝の皆様にご覧いただきます。

応募期間 令和7年8月1日～令和8年7月31日

## 第13回 フォトコンテスト 作品募集中

初宮諸芳名（敬称略）

(令和7年3月21日～11月20日)

瀬川晃生	茂原周生	春日光稀	川田棕士	小林倫也	須藤庵吏	法師山心春	矢野碧翔	望月伊織	シムシット光羅	田端快翔	中西瑠	宮田莉莉	川井季季	山下朗	中澤京佑	北村真翔	清都由馬	細井詩晴	栗原鼎	柳岡望那	八幡咲
春日光稀	川田棕士	小林倫也	須藤庵吏	法師山心春	矢野碧翔	望月伊織	シムシット光羅	田端快翔	中西瑠	宮田莉莉	川井季季	山下朗	中澤京佑	北村真翔	清都由馬	細井詩晴	栗原鼎	柳岡望那	八幡咲	瀬川晃生	
川田棕士	小林倫也	須藤庵吏	法師山心春	矢野碧翔	望月伊織	シムシット光羅	田端快翔	中西瑠	宮田莉莉	川井季季	山下朗	中澤京佑	北村真翔	清都由馬	細井詩晴	栗原鼎	柳岡望那	八幡咲	瀬川晃生		
小林倫也	須藤庵吏	法師山心春	矢野碧翔	望月伊織	シムシット光羅	田端快翔	中西瑠	宮田莉莉	川井季季	山下朗	中澤京佑	北村真翔	清都由馬	細井詩晴	栗原鼎	柳岡望那	八幡咲	瀬川晃生			
須藤庵吏	法師山心春	矢野碧翔	望月伊織	シムシット光羅	田端快翔	中西瑠	宮田莉莉	川井季季	山下朗	中澤京佑	北村真翔	清都由馬	細井詩晴	栗原鼎	柳岡望那	八幡咲	瀬川晃生				
法師山心春	矢野碧翔	望月伊織	シムシット光羅	田端快翔	中西瑠	宮田莉莉	川井季季	山下朗	中澤京佑	北村真翔	清都由馬	細井詩晴	栗原鼎	柳岡望那	八幡咲	瀬川晃生					
矢野碧翔	望月伊織	シムシット光羅	田端快翔	中西瑠	宮田莉莉	川井季季	山下朗	中澤京佑	北村真翔	清都由馬	細井詩晴	栗原鼎	柳岡望那	八幡咲	瀬川晃生						
望月伊織	シムシット光羅	田端快翔	中西瑠	宮田莉莉	川井季季	山下朗	中澤京佑	北村真翔	清都由馬	細井詩晴	栗原鼎	柳岡望那	八幡咲	瀬川晃生							
シムシット光羅	田端快翔	中西瑠	宮田莉莉	川井季季	山下朗	中澤京佑	北村真翔	清都由馬	細井詩晴	栗原鼎	柳岡望那	八幡咲	瀬川晃生								
田端快翔	中西瑠	宮田莉莉	川井季季	山下朗	中澤京佑	北村真翔	清都由馬	細井詩晴	栗原鼎	柳岡望那	八幡咲	瀬川晃生									
中西瑠	宮田莉莉	川井季季	山下朗	中澤京佑	北村真翔	清都由馬	細井詩晴	栗原鼎	柳岡望那	八幡咲	瀬川晃生										
宮田莉莉	川井季季	山下朗	中澤京佑	北村真翔	清都由馬	細井詩晴	栗原鼎	柳岡望那	八幡咲	瀬川晃生											
八幡咲	瀬川晃生	中澤京佑	北村真翔	清都由馬	細井詩晴	栗原鼎	柳岡望那	八幡咲	瀬川晃生												
八幡咲	瀬川晃生	中澤京佑	北村真翔	清都由馬	細井詩晴	栗原鼎	柳岡望那	八幡咲	瀬川晃生												
瀬川晃生	中澤京佑	北村真翔	清都由馬	細井詩晴	栗原鼎	柳岡望那	八幡咲	瀬川晃生													
瀬川晃生	中澤京佑	北村真翔	清都由馬	細井詩晴	栗原鼎	柳岡望那	八幡咲	瀬川晃生													
中澤京佑	北村真翔	清都由馬	細井詩晴	栗原鼎	柳岡望那	八幡咲	瀬川晃生														
北村真翔	清都由馬	細井詩晴	栗原鼎	柳岡望那	八幡咲	瀬川晃生															
清都由馬	細井詩晴	栗原鼎	柳岡望那	八幡咲	瀬川晃生																
細井詩晴	栗原鼎	柳岡望那	八幡咲	瀬川晃生																	
栗原鼎	柳岡望那	八幡咲	瀬川晃生																		
柳岡望那	八幡咲	瀬川晃生																			
八幡咲	瀬川晃生																				



そして神社に  
出向いてお祓い  
を受けるのですがこの時、外拝殿で龍笛  
の音色に合わせて女性神職さんが朗々  
と「豊栄の舞」を歌い、お巫女さんがそ  
の舞を奉納されます。神職さんが神様  
をお札の形でお神輿にお乗せするお祭  
りをいたします。この一連の流れを目の  
前で見ている子どもたちは更に気持ち  
が高まり、神様を身近に感じるよう  
見えます。



大宮幼稚園の子どもたちが一番身近に感じる神様は例祭で執り行われる「子ども神輿にお乗りになられる神様」です。待ちに待つたお神輿担ぎの日、子どもたちは保育室でまず大宮八幡宮の真新しい手ぬぐいを一人ひとり手渡され、保育者が順番に笛龍胆のマークを子ども



高木佑	田中心陽	田口惺	綿引斗唯	田本紗和	岩品凪音	宮崎華蓮
藤川なのは	間々田侑	細川文歌	細川文歌	西本昇生	原田櫻	橋本紗和
右井碧陽	仲西莉央	寺園胡桃	寺園胡桃	山本椰月	山本椰月	熊谷灯真
古野杜和	田中千尋	元重光稀	元重光稀	工藤咲來	工藤咲來	清水千夏
山根悠世	中村杏佳	未吉佑守	未吉佑守	宮田瑞生	宮田瑞生	渡邊文哉
篠塚那彩	鈴木奏詩	緒方海晴	緒方海晴	坂尻世龍	坂尻世龍	守山樂
河井文弥	藤田桐乃	上杉朱理	上杉朱理	寺岡樹俐	寺岡樹俐	西村結愛
今田紳希	藤田伊純	柳原絢斗	柳原絢斗	青山夏樹	青山夏樹	金子峯翠
大橋湊	大橋湊	寺園胡桃	寺園胡桃	木村澄	木村澄	原田櫻
田村楓希	田村楓希	元重光稀	元重光稀	瀧下梓	瀧下梓	西本昇生
長島希空	松岡治佳	未吉佑守	未吉佑守	小川夢華	小川夢華	山本椰月
小熊渚叶	小熊渚叶	緒方海晴	緒方海晴	劉泰梨	劉泰梨	工藤咲來
加藤凱都	小西日夕	上杉朱理	上杉朱理	渡邊文哉	渡邊文哉	宮田瑞生
杉江航	田村楓希	柳原絢斗	柳原絢斗	坂尻世龍	坂尻世龍	坂尻悠乃
照井杜季	長島希空	寺岡樹俐	寺岡樹俐	寺岡樹俐	寺岡樹俐	緒方海晴
三五葵斗	神里瑠星	青山夏樹	青山夏樹	木村澄	木村澄	寺園胡桃
小野楓	竹内希帆	元重光稀	元重光稀	瀧下梓	瀧下梓	元重光稀
浅尾空	高橋千紗	未吉佑守	未吉佑守	小川夢華	小川夢華	未吉佑守
田村禪	照井杜季	緒方海晴	緒方海晴	劉泰梨	劉泰梨	緒方海晴
鈴木脩真	神里瑠星	上杉朱理	上杉朱理	渡邊文哉	渡邊文哉	坂尻世龍
組東花帆	三五葵斗	柳原絢斗	柳原絢斗	坂尻世龍	坂尻世龍	坂尻悠乃
門屋結利	小野楓	寺岡樹俐	寺岡樹俐	寺岡樹俐	寺岡樹俐	緒方海晴
大野晃輔	浅尾空	青山夏樹	青山夏樹	木村澄	木村澄	寺園胡桃
上田裕惺	田村禪	元重光稀	元重光稀	瀧下梓	瀧下梓	元重光稀
石松蘭	鈴木脩真	未吉佑守	未吉佑守	小川夢華	小川夢華	未吉佑守
石松閃	組東花帆	緒方海晴	緒方海晴	劉泰梨	劉泰梨	緒方海晴
武藤蒼	門屋結利	上杉朱理	上杉朱理	渡邊文哉	渡邊文哉	坂尻世龍
吉原瀨奈	大野晃輔	柳原絢斗	柳原絢斗	坂尻世龍	坂尻世龍	坂尻悠乃
千葉橙子	上田裕惺	寺岡樹俐	寺�冈樹俐	寺岡樹俐	寺岡樹俐	緒方海晴
岩井惺南	石松蘭	青山夏樹	青山夏樹	木村澄	木村澄	寺園胡桃
千幡みのり	石松閃	元重光稀	元重光稀	瀧下梓	瀧下梓	元重光稀
小幡輝	武藤蒼	未吉佑守	未吉佑守	小川夢華	小川夢華	未吉佑守
秋葉凌斗	吉原瀨奈	緒方海晴	緒方海晴	劉泰梨	劉泰梨	緒方海晴
田口三奈	千葉橙子	上杉朱理	上杉朱理	渡邊文哉	渡邊文哉	坂尻世龍
宮本恵瑞	岩井惺南	柳原絢斗	柳原絢斗	坂尻世龍	坂尻世龍	坂尻悠乃
石塙咲美	千幡みのり	寺岡樹俐	寺岡樹俐	寺岡樹俐	寺岡樹俐	緒方海晴
杉本晴	小幡輝	青山夏樹	青山夏樹	木村澄	木村澄	寺園胡桃
上園香紗	秋葉凌斗	元重光稀	元重光稀	瀧下梓	瀧下梓	元重光稀
野上慧悟	田口三奈	未吉佑守	未吉佑守	小川夢華	小川夢華	未吉佑守
	吉澤世夏	緒方海晴	緒方海晴	劉泰梨	劉泰梨	緒方海晴
	稻葉楓音	上杉朱理	上杉朱理	渡邊文哉	渡邊文哉	坂尻世龍
	諸星恒	柳原絢斗	柳原絢斗	坂尻世龍	坂尻世龍	坂尻悠乃
	深間凜歩	寺岡樹俐	寺岡樹俐	寺岡樹俐	寺岡樹俐	緒方海晴
	福田凌久	青山夏樹	青山夏樹	木村澄	木村澄	寺園胡桃
	高橋帆希	元重光稀	元重光稀	瀧下梓	瀧下梓	元重光稀
	亀崎依央里	未吉佑守	未吉佑守	小川夢華	小川夢華	未吉佑守
	花輪颯	緒方海晴	緒方海晴	劉泰梨	劉泰梨	緒方海晴
	森田梨里愛	上杉朱理	上杉朱理	渡邊文哉	渡邊文哉	坂尻世龍
	渡邊伊佐	柳原絢斗	柳原絢斗	坂尻世龍	坂尻世龍	坂尻悠乃
	長谷川穂果	寺岡樹俐	寺岡樹俐	寺岡樹俐	寺岡樹俐	緒方海晴
	美世葵衣	青山夏樹	青山夏樹	木村凌久	木村凌久	寺園胡桃
	白倉大智	元重光稀	元重光稀	青山夏樹	青山夏樹	元重光稀
	高比良晴生	未吉佑守	未吉佑守	柳原絢斗	柳原絢斗	寺岡樹俐
	佐藤堯晴	緒方海晴	緒方海晴	寺岡樹俐	寺岡樹俐	元重光稀
	宮田想哉	上杉朱理	上杉朱理	木村凌久	木村凌久	寺岡樹俐
	薺田想哉	柳原絢斗	柳原絢斗	柳原絢斗	柳原絢斗	寺岡樹俐
	小根山きび	寺岡樹俐	寺岡樹俐	寺岡樹俐	寺岡樹俐	寺岡樹俐
	七戸新	元重光稀	元重光稀	木村凌久	木村凌久	寺岡樹俐
	福田悠太	未吉佑守	未吉佑守	柳原絢斗	柳原絢斗	寺岡樹俐
	高橋帆希	緒方海晴	緒方海晴	寺岡樹俐	寺岡樹俐	寺岡樹俐
	高橋青椰	上杉朱理	上杉朱理	木村凌久	木村凌久	寺岡樹俐
	森田梨里愛	柳原絢斗	柳原絢斗	柳原絢斗	柳原絢斗	寺岡樹俐
	渡邊伊佐	寺岡樹俐	寺岡樹俐	寺岡樹俐	寺岡樹俐	寺岡樹俐
	大石美来	元重光稀	元重光稀	木村凌久	木村凌久	寺岡樹俐
	水島怜晴	未吉佑守	未吉佑守	柳原絢斗	柳原絢斗	寺岡樹俐
	高島羽月	緒方海晴	緒方海晴	寺岡樹俐	寺岡樹俐	寺岡樹俐
	山崎新砥	上杉朱理	上杉朱理	木村凌久	木村凌久	寺岡樹俐
	石坂咲奈	柳原絢斗	柳原絢斗	柳原絢斗	柳原絢斗	寺岡樹俐
	早川ふみ	寺岡樹俐	寺岡樹俐	寺岡樹俐	寺岡樹俐	寺岡樹俐
	五十嵐夕陽	元重光稀	元重光稀	木村凌久	木村凌久	寺岡樹俐
	高島羽月	未吉佑守	未吉佑守	柳原絢斗	柳原絢斗	寺岡樹俐
	山崎新砥	緒方海晴	緒方海晴	寺岡樹俐	寺岡樹俐	寺岡樹俐
	宮崎文化	上杉朱理	上杉朱理	木村凌久	木村凌久	寺岡樹俐
	鴨下紘季	柳原絢斗	柳原絢斗	柳原絢斗	柳原絢斗	寺岡樹俐
	山中瀬花	寺岡樹俐	寺岡樹俐	寺岡樹俐	寺岡樹俐	寺岡樹俐
	美世葵衣	元重光稀	元重光稀	木村凌久	木村凌久	寺岡樹俐
	白倉大智	未吉佑守	未吉佑守	柳原絢斗	柳原絢斗	寺岡樹俐
	高比良晴生	緒方海晴	緒方海晴	寺岡樹俐	寺岡樹俐	寺岡樹俐
	佐藤堯晴	上杉朱理	上杉朱理	木村凌久	木村凌久	寺岡樹俐
	宮崎文化	柳原絢斗	柳原絢斗	柳原絢斗	柳原絢斗	寺岡樹俐
	鶴伊織	寺岡樹俐	寺岡樹俐	木村凌久	木村凌久	寺岡樹俐
	塩川紘	元重光稀	元重光稀	柳原絢斗	柳原絢斗	寺岡樹俐
	須藤立	寺岡樹俐	寺岡樹俐	寺岡樹俐	寺岡樹俐	寺岡樹俐
	大谷泰智	元重光稀	元重光稀	木村凌久	木村凌久	寺岡樹俐
	村田環	寺岡樹俐	寺岡樹俐	柳原絢斗	柳原絢斗	寺岡樹俐
	永澤紘伊	寺岡樹俐	寺岡樹俐	寺岡樹俐	寺岡樹俐	寺岡樹俐
	鶴伊織	元重光稀	元重光稀	木村凌久	木村凌久	寺岡樹俐
	雁部瀧里	寺岡樹俐	寺岡樹俐	柳原絢斗	柳原絢斗	寺岡樹俐
	閑水翔杞	寺岡樹俐	寺岡樹俐	寺岡樹俐	寺岡樹俐	寺岡樹俐
	西岡秀翔	元重光稀	元重光稀	木村凌久	木村凌久	寺岡樹俐
	前原幸穂	寺岡樹俐	寺岡樹俐	柳原絢斗	柳原絢斗	寺岡樹俐
	林涼月	寺岡樹俐	寺岡樹俐	寺岡樹俐	寺岡樹俐	寺岡樹俐
	大閏夏月	元重光稀	元重光稀	木村凌久	木村凌久	寺岡樹俐
	町田暁	寺岡樹俐	寺岡樹俐	柳原絢斗	柳原絢斗	寺岡樹俐
	廣田愛乃	寺岡樹俐	寺岡樹俐	寺岡樹俐	寺岡樹俐	寺岡樹俐
	岡村穂	元重光稀	元重光稀	木村凌久	木村凌久	寺岡樹俐
	相澤知依	寺岡樹俐	寺岡樹俐	柳原絢斗	柳原絢斗	寺岡樹俐
	東上慈生	元重光稀	元重光稀	寺岡樹俐	寺岡樹俐	寺岡樹俐
	米澤統	寺岡樹俐	寺岡樹俐	木村凌久	木村凌久	寺岡樹俐
	塙本ことみ	元重光稀	元重光稀	柳原絢斗	柳原絢斗	寺岡樹俐
	塙本ことみ	寺岡樹俐	寺岡樹俐	寺岡樹俐	寺岡樹俐	寺岡樹俐
	岡田柊惺	元重光稀	元重光稀	木村凌久	木村凌久	寺岡樹俐
	高橋大智	寺岡樹俐	寺岡樹俐	柳原絢斗	柳原絢斗	寺岡樹俐
	金守永磨	元重光稀	元重光稀	寺岡樹俐	寺岡樹俐	寺岡樹俐
	宮田想太郎	寺岡樹俐	寺岡樹俐	木村凌久	木村凌久	寺岡樹俐
	高橋大智	元重光稀	元重光稀	柳原絢斗	柳原絢斗	寺岡樹俐
	荒橋つむぎ	寺岡樹俐	寺岡樹俐	寺岡樹俐	寺岡樹俐	寺岡樹俐
	高橋千紗	元重光稀	元重光稀	木村凌久	木村凌久	寺岡樹俐
	荒橋つむぎ	寺岡樹俐	寺岡樹俐	柳原絢斗	柳原絢斗	寺岡樹俐
	高橋千紗	元重光稀	元重光稀	寺岡樹俐	寺岡樹俐	寺岡樹俐
	高橋千紗	寺岡樹俐	寺岡樹俐	木村凌久	木村凌久	寺岡樹俐
	高橋千紗	元重光稀	元重光稀	柳原絢斗	柳原絢斗	寺岡樹俐
	高橋千紗	寺岡樹俐	寺岡樹俐	寺岡樹俐	寺岡樹俐	寺岡樹俐
	高橋千紗	元重光稀	元重光稀	木村凌久	木村凌久	寺岡樹俐
	高橋千紗	寺岡樹俐	寺岡樹俐	柳原絢斗	柳原絢斗	寺岡樹俐
	高橋千紗	元重光稀	元重光稀	寺岡樹俐	寺岡樹俐	寺岡樹俐
	高橋千紗	寺岡樹俐	寺岡樹俐	木村凌久	木村凌久	寺岡樹俐
	高橋千紗	元重光稀	元重光稀	柳原絢斗	柳原絢斗	寺岡樹俐
	高橋千紗	寺岡樹俐	寺岡樹俐	寺岡樹俐	寺岡樹俐	寺岡樹俐
	高橋千紗	元重光稀	元重光稀	木村凌久	木村凌久	寺岡樹俐
	高橋千紗	寺岡樹俐	寺岡樹俐	柳原絢斗	柳原絢斗	寺岡樹俐
	高橋千紗	元重光稀	元重光稀	寺岡樹俐	寺岡樹俐	寺岡樹俐
	高橋千紗	寺岡樹俐	寺岡樹俐	木村凌久	木村凌久	寺岡樹俐
	高橋千紗	元重光稀	元重光稀	柳原絢斗	柳原絢斗	寺岡樹俐
	高橋千紗	寺岡樹俐	寺岡樹俐	寺岡樹俐	寺岡樹俐	寺岡樹俐
	高橋千紗	元重光稀	元重光稀	木村凌久	木村凌久	寺岡樹俐
	高橋千紗	寺岡樹俐	寺岡樹俐	柳原絢斗	柳原絢斗	寺岡樹俐
	高橋千紗	元重光稀	元重光稀	寺岡樹俐	寺岡樹俐	寺岡樹俐
	高橋千紗	寺岡樹俐	寺岡樹俐	木村凌久	木村凌久	寺岡樹俐
	高橋千紗	元重光稀	元重光稀	柳原絢斗	柳原絢斗	寺岡樹俐
	高橋千紗	寺岡樹俐	寺岡樹俐	寺岡樹俐	寺岡樹俐	寺岡樹俐
	高橋千紗	元重光稀	元重光稀	木村凌久	木村凌久	寺岡樹俐
	高橋千紗	寺岡樹俐	寺岡樹俐	柳原絢斗	柳原絢斗	寺岡樹俐
	高橋千紗	元重光稀	元重光稀	寺岡樹俐	寺岡樹俐	寺岡樹俐
	高橋千紗	寺岡樹俐	寺岡樹俐	木村凌久	木村凌久	寺岡樹俐
	高橋千紗	元重光稀	元重光稀	柳原絢斗	柳原絢斗	寺岡樹俐
	高橋千紗	寺岡樹俐	寺岡樹俐	寺岡樹俐	寺岡樹俐	寺岡樹俐
	高橋千紗	元重光稀	元重光稀	木村凌久	木村凌久	寺岡樹俐
	高橋千紗	寺岡樹俐	寺岡樹俐	柳原絢斗	柳原絢斗	寺岡樹俐
	高橋千紗	元重光稀	元重光稀	寺岡樹俐	寺岡樹俐	寺岡樹俐
	高橋千紗	寺岡樹俐	寺岡樹俐	木村凌久	木村凌久	寺岡樹俐
	高橋千紗	元重光稀	元重光稀	柳原絢斗	柳原絢斗	寺岡樹俐
	高橋千紗	寺岡樹俐	寺岡樹俐	寺岡樹俐	寺岡樹俐	寺岡樹俐
	高橋千紗	元重光稀	元重光稀	木村凌久	木村凌久	寺岡樹俐
	高橋千紗	寺岡樹俐	寺岡樹俐	柳原絢斗	柳原絢斗	寺岡樹俐
	高橋千紗	元重光稀	元重光稀	寺岡樹俐	寺岡樹俐	寺岡樹俐
	高橋千紗	寺岡樹俐	寺岡樹俐	木村凌久	木村凌久	寺岡樹俐
	高橋千紗	元重光稀	元重光稀	柳原絢斗	柳原絢斗	寺岡樹俐
	高橋千紗	寺岡樹俐	寺岡樹俐	寺岡樹俐	寺岡樹俐	寺岡樹俐
	高橋千紗	元重光稀	元重光稀	木村凌久	木村凌久	寺岡樹俐
	高橋千紗	寺岡樹俐	寺岡樹俐	柳原絢斗	柳原絢斗	寺岡樹俐
	高橋千紗	元重光稀	元重光稀	寺岡樹俐	寺岡樹俐	寺岡樹俐
	高橋千紗	寺岡樹俐	寺岡樹俐	木村凌久	木村凌久	寺岡樹俐
	高橋千紗	元重光稀	元重光稀	柳原絢斗	柳原絢斗	寺岡樹俐
	高橋千紗	寺岡樹俐	寺岡樹俐	寺岡樹俐	寺岡樹俐	寺岡樹俐
	高橋千紗	元重光稀	元重光稀	木村凌久	木村凌久	寺岡樹俐
	高橋千紗	寺岡樹俐	寺岡樹俐	柳原絢斗	柳原絢斗	寺岡樹俐
	高橋千紗	元重光稀	元重光稀	寺岡樹俐	寺岡樹俐	寺岡樹俐
	高橋千紗	寺岡樹俐	寺岡樹俐	木村凌久	木村凌久	寺岡樹俐
	高橋千紗	元重光稀	元重光稀	柳原絢斗	柳原絢斗	寺岡樹俐
	高橋千紗	寺岡樹俐	寺岡樹俐	寺岡樹俐	寺岡樹俐	寺岡樹俐
	高橋千紗	元重光稀	元重光稀	木村凌久	木村凌久	寺岡樹俐
	高橋千紗	寺岡樹俐	寺岡樹俐	柳原絢斗	柳原絢斗	寺岡樹俐
	高橋千紗	元重光稀	元重光稀	寺岡樹俐	寺岡樹俐	寺岡樹俐
	高橋千紗	寺岡樹俐	寺岡樹俐	木村凌久	木村凌久	寺岡樹俐
	高橋千紗	元重光稀	元重光稀	柳原絢斗	柳原絢斗	寺岡樹俐
	高橋千紗	寺岡樹俐	寺岡樹俐	寺岡樹俐	寺岡樹俐	寺岡樹俐
	高橋千紗	元重光稀	元重光稀	木村凌久	木村凌久	寺岡樹俐
	高橋千紗	寺岡樹俐	寺岡樹俐	柳原絢斗	柳原絢斗	寺岡樹俐
	高橋千紗	元重光稀	元重光稀	寺岡樹俐	寺岡樹俐	寺岡樹俐
	高橋千紗	寺岡樹俐	寺岡樹俐	木村凌久	木村凌久	寺岡樹俐
	高橋千紗	元重光稀	元重光稀	柳原絢斗	柳原絢斗	寺岡樹俐
	高橋千紗	寺岡樹俐	寺岡樹俐	寺岡樹俐	寺岡樹俐	寺岡樹俐
	高橋千紗	元重光稀	元重光稀	木村凌久	木村凌久	寺岡樹俐
	高橋千紗	寺岡樹俐	寺岡樹俐	柳原絢斗	柳原絢斗	寺岡樹俐
	高橋千紗	元重光稀	元重光稀	寺岡樹俐	寺岡樹俐	寺岡樹俐
	高橋千紗	寺岡樹俐	寺岡樹俐	木村凌久	木村凌久	寺岡樹俐
	高橋千紗	元重光稀	元重光稀	柳原絢斗	柳原絢斗	寺岡樹俐
	高橋千紗	寺岡樹俐	寺岡樹俐	寺岡樹俐	寺岡樹俐	寺岡樹俐
	高橋千紗	元重光稀	元重光稀	木村凌久	木村凌久	寺岡樹俐
	高橋千紗	寺岡樹俐	寺岡樹俐	柳原絢斗	柳原絢斗	寺岡樹俐
	高橋千紗	元重光稀	元重光稀	寺岡樹俐	寺岡樹俐	寺岡樹俐
	高橋千紗	寺岡樹俐	寺岡樹俐	木村		

# 緑豊かな都心の杜で 絆深める和婚式

成 人 式  
卒 業 式

衣装・美容着付・写真・  
初宮饗膳(ご会食)など  
承ります。

清涼殿

03(3312)7515

結婚式挙式者芳名（敬称略）

卷四

ウイスティリア ラース ロビン・悠美  
中山令大・夏奈

松尾隆策・ちひろ

廣底龍・キヤサリンアゲエ田  
子一、ナミト

銚名倅志・ホアンヒウ外  
安田堅司・麻里奈

ダニエルフラッド・のぞみ

長田功喜・ルツソツアイア

西川入門 漢語三日・美香

卷之三

A man with a blue backpack and a young boy are writing on wooden plaques (Ema) hanging from a shrine's fence. A woman stands behind them, also writing on a plaque. The plaques are inscribed with various messages and drawings.



5月	4月	3月	2月	1月
12日(火)	6日(月)	1日(日)	5日(木)	12日(祝月)
24日(日)	18日(土)	13日(金)	17日(火)	24日(土)
	30日(木)	25日(水)		

戌の日早見表  
(令和8年1月~5月)

成の日詣りは  
聖母大神・子育て八幡さまの当宮で  
安産祈願祭を！

## 安産祈願祭を！

※戌の日以外でも隨時お受けしております  
ご祈願の方には安産腹帶（大宮八幡息長帶）と  
おきながおひ

共に、へその緒で結ばれたお母様とお子様が健康にご出産の時を迎えられますようにとの願い

が込められた「母子緒守」「安産御守」「安産祈願絵馬」を特別に授与しております。



**新春にはご祈願をお受けになり、清々しい1年にいたしましょう**  
(新春初祈願祭は、2月3日の節分までご奉仕致します。)



修祓の儀



祝詞奏上



鈴振り神事

スマートフォンからは、下のQRコードを読み取ってご覧ください。



大宮八幡宮のホームページでは、遠方にお住まいなど、やむを得ず当宮にお越しになれない方のためにオンライン授与所を開設しております。他にも大宮八幡宮のご由緒や四季折々の祭典・行事、大宮八幡宮でしか見られない行事などを紹介されています。スマートフォンからもご覧いただけます。

大宮八幡宮 オンライン授与所

オンラインによるご祈願のお申し込み、お守りなどを承っております

授与所 カード マイカウント 支払い 送料について 特定商取引法に基づく表記 プライバシーポリシー

TEL: 03-3311-0105  
E-mail: info@ohmiya-hachimangu.or.jp

オンラインによるご祈願のお申し込み、お守りなどを承っております

CARD

特定商取引法に基づく表記 プライバシーポリシー

料金の目安を表示しています

ご祈祷 ¥10,000  
ご祈祷 ¥10,000  
ご祈祷 (別箱面)  
えんむすび守  
こちらを受ける  
こちらを受ける  
こちらを受ける  
こちらを受ける

## 大宮八幡宮 オンライン授与所



**大宮第133・134合併号**  
**令和8年新春号**  
令和8年1月1日発行  
**大宮八幡宮社務所**

〒168-8570  
東京都杉並区大宮2-3-1  
電話(3311)0105 FAX(3318)6100  
Mail: info@ohmiya-hachimangu.or.jp



表参道の賑わい

## 新春社頭風景



授与所にて新春のお守りを受ける参拝者